

穏やかな秋晴れのトレッキング日和、御嶽山に登りました。先ず登山口から、国吉城跡（10年におよぶ越前朝倉勢の猛攻を防ぎ、信長、秀吉、家康が越前攻めに出陣した若狭国東方を守護する天下の堅城）を散策し、御嶽山を目指しました。途中、鉾山跡（珪石）でレールや滑車などが残っていた。山頂の北の斜面は大きく切り落ちていた。

今日は、10:35にのろしが上がるとのことで、じっと待っていましたが見えなかった。下山して確認すると、煙が横に少し上がっただけで分からなかったとのこと。残念。眺望も素晴らしく、時々楽しみながら登りました。山頂からの眺望は格段に素晴らしく、とても楽しいトレッキングだった。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日だった。

◆歴史① 国吉城は、若狭守護大名竹田氏の重臣であった栗屋越中守勝久によって弘治2年（1556）に築かれた。永禄6年（1563）からの10年間、攻め寄せる越前朝倉勢を相手に壮絶な籠城戦を繰り広げたことで有名。元亀元年（1570）4月、信長が進み、家康が戦い、秀吉が守りそして、浅井三姉妹の運命を変えた、越前金ヶ崎城・天筒山城の戦い。この時、織田方の最前線の城として、越前攻めの戦略が練られたのもこの国吉城である。4月20日、越前朝倉氏を攻めるため、今日を出陣した織田・徳川連合軍は、琵琶湖西岸を北上し、22日に若狭国熊川に入り、翌23日、城主、栗屋勝久が信長勢を倉見峠まで出迎え、共に国吉城に入ったと言われる。

信長は国吉城で軍議を重ね、25日、越前国に向けて出陣した。天筒山・金ヶ崎城を瞬く間に攻略したが、妹婿である北近江の浅井長政の裏切りで撤退を余儀なくされた。しかし、木下藤吉郎（豊臣秀吉）の殿戦によって無事退却した信長は、同年6月の姉川の戦いで浅井・朝倉軍を打ち破った

歴史② 405.5mの三角点を過ぎると尾根は広くなり益々緩やかな道となる。山頂近くになると直径4mほどの穴が幾つもある、珪石鉾山の索道鉄塔の跡だそう。山頂北斜面はスパッと切り落ちていた。鉾山跡だ。

歴史③ 登山口にある准藩士屋敷跡 小浜藩預かりとなった水戸天狗党の残党を收容するため、慶応2年（1866）にこの地に新築されたもので、周囲の石垣が残存する。尊王攘夷実現のため、常陸国筑波山で挙兵した水戸天狗党は京都を目指したが、幕府軍の追撃を受け越前国敦賀で降伏した。慶応元年（1865）首領の武田耕雲斎以下353名は死罪となった。遠島になった武田金次郎以下110名は小浜藩に預けられ敦賀で謹慎し翌年赦免された。小浜藩では彼らを准藩士格として扱い、佐柿に移した。慶応4年朝廷より水戸帰藩を命ぜられ、佐柿を後にした。

◆トレッキングの様子と歴史①



准藩士屋敷跡



石垣が残る



国吉城跡→



城主居館跡 1



2



眺望



切岸の説明をして下さった。傾斜 80 度くらい。



五輪塔・石仏



土塁と櫓台



天守



天守へ

虎口



五輪塔・石仏



土塁と櫓台



天守



・尾根つたいに御嶽山へ



珪石はこれかなあ・



素晴らしい眺望を楽しみながら



鉱山で使われたレールなどあり 御嶽山で記念撮影
北斜面は絶壁、鉱山跡を覗く。ぎょっ・・・。



山頂からの眺望
なんとも素晴らしい至福のひと時



熊の爪痕・キツツキの穴など探検する



五輪塔・石仏なども朝倉勢襲来に
準備。攻めてきたら投げるため。

◆歴史②鉱山跡のもの



レールが当時のまま↑

◆自然観察

ナツハゼの実の試食タイム：酸っぱい、美味しいなど意見はさまざま



樫の巨木



お茶の花



ノギク



ナツハゼの実を食べる



マムシグサ



←カマキリ：保護色。草原では、緑色
「緑色もいるね。2種類いるの・・・」
「保護色で色が変わるのよ」「この
間ではじめて産卵している所を見
たよなど談笑しながら観察



シロダモの実と花



ゴンズイの実



アキチョウジ



赤とんぼ



キキョウ